



Rotary Opens Opportunities

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：佐藤 章夫 幹事：遠藤 正明

地区目標 「4つのテスト」を実践し ロータリーの価値をたかめよう。

クラブテーマ Let's Make The Best Better 前へ!

◆点鐘：佐藤 章夫 会長 ◆ロータリーソング：四つのテスト
◆司会：武田 秀和 副 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2896回例会

令和2年12月21日(月)

会長あいさつ

佐藤 章夫 会長



今年最後の例会でございます。コロナ感染拡大の中での会の運営上、たびたびの変更を強いられ、皆さまには大変ご迷惑をおかけしましたが、何とか規定方針の大筋は変えずに、今日までやってまいりました。会員の皆さまのご理解、ご協力を心

から感謝申し上げます。

クリスマスにプレゼントを運んでくるサンタクロースは、「セント・ニコラウス」という法衣の聖職者の名前のオランダ訛りだそうです。なぜ、サンタクロースは、厚い冬着姿で、雪の中をトナカイにひかれたソリで、プレゼントを運んでくるのでしょうか。これは互いに励まし合い、寒い冬に耐え、助け合って暮らす北欧の人々に、善意の贈り物を届ける人々がいたことを意味しているのだと思います。

私たちは国や地方自治体に不平不満をぶつけ、何から何まで国がやるべきだ。市や県のやることだと言います。国や自治体がこれらすべてをできるはずはありません。民間の資金と人材を組織し活用して、善意でかつ無償を厭わず市民生活に寄与する仕組みが必要です。ロータリークラブはまさにその1つであります。他にも多くの組織団体が同じような意図で活動しております。そういう存在が多いほど、進んだ国、進んだ社会なのだとは私思っております。ロータリークラブは職業人が個人の資格で奉仕活動をする組織です。会員は自分の職業、属している業界、政治・思想団体の代表ではありません。言葉の力は大きい。ロータリークラブは国際組織のRI会長がまず自分の思いを言葉にして発する。するとそれに準じて、地区ガバナーが方針を示す言葉を掲げ、さらに、それを念頭に置いて、末端クラブの会長が何らかの原義を会員に示さなければなりません。この言葉のつながりによって、全世界のロータリアンの意思が統一され、連携した活動が展開されるのです。

ここに掲げられているRI会長の「Rotary Opens Opportunities」地区ガバナーの「4つのテストを実践しよう」そして、不肖私の「To make the best better.～前へ」がそれであります。

来年こそはいい年でありますように、祈念してご挨拶いたします。ありがとうございました。

幹事報告

遠藤 正明 幹事

- 次回の1月18日の例会ですが、新年昼食会ということで、会場は千歳館さんで行いますが、年明けの昼食会を行う予定でございます。今日明日で会員の皆さまには、ご案内を差し上げさせていただきます。
- 1月23日に開催予定のIMですが、今年は例会ではございませんでした。しかしながら、主催をする山形イブニングロータリーのほうから連絡がありまして、中止に決まったようでございます。
- 今日は短縮例会になっております。せっかくの時間でございますので、新入会員の皆さまから3分間スピーチをしていただくことにしました。現段階で8名の新しい仲間がいますので、折を見てお一方ずつでも皆さんの前でお話をしていただきたいと考えているところでございます。
- 事務局の休みが12月26日土曜日から1月6日水曜日までとなっておりますので、覚えていただきたいと思っております。

ようやく、半分が終わろうとしています。だんだん気が緩みがちなので、決して緩まず、後半戦も一生懸命務めてまいりますので、厳しいご指導と温かいご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。後半もよろしく願いいたします。

ニコニコBOX

〈12月21日〉

佐藤章夫会長／前半を終えて

よたよたしながら何とか任期前半を終えようとしています。皆さまのご協力に心からの御礼を申し上げます。

東海林健登さん／会長、遠藤幹事、半年間ご苦労様です。コロナ禍の中、クラブ運営、ありがとうございます。来年は早々にコロナ禍も終了し、楽しいロータリーライフが送れるようになります事、切に希望しニコニコします。

遠藤栄次郎さん／佐藤会長の前半が無事に終わりましたこと、おめでとうございます。コロナ災害の中、大変な半年でした。後半も無事に終了されることを祈念いたします。

新入会員スピーチ



長谷川浩一郎 会員

7月に入会させていただきました長谷川浩一郎でございます。

本日は「コロナ感染の世界的な状況」ということで情報提供させていただきます。

現在、世界全体でのコロナ陽性確認者数(感染者数)は7650万人となっており、人口比率で言えば、何と100人に1人が確認されている状況となりました。

日本と山形県はどうかと言うと、国内では陽性確認者数20万人、人口比率で0.2%、つまり500人に1人が確認されており、県内では314人、人口比率0.03%、3333人に1人という状況です。ちなみに、東京では250人に1人になります。

今後もコロナ感染は、この数字の5倍や10倍という拡大の一途を辿ると思います。そのような中で、地域として大切なことは、これまで同様に一人一人が社会の一因であることを自覚し細心の注意をもって感染対策に努めることです。しかしその一方で、今後は、個人がどれだけ予防をしても罹患してしまう環境にもなります。その際には、社会として偏見や誹謗中傷を行わない冷静な対応が重要だと思われ、罹患した人は決して他者には移さないという責任ある努力が必要だと思われ。

「ロータリーの精神は世界に広げても、コロナは広めるな!」ということで、このスピーチを閉じさせていただきます。ご清聴いただきありがとうございました。



横沢 善則 会員

山形テレビ横沢です。この6月まで東京支社に13年間勤務した経験から外から見た山形を少しお話をさせていただきます。

まず初めに、東京の中に山形を探すのが難しいということです。会食の機会を多く、山形の郷土料理・名物料理を食せるお店を探すわけですが、なかなか非常に苦労いたしました。東北の各県がそうかと思うと、それがそうではなく、各県とも都心にお店を持ち、郷土色を出しながらそれなりのお店を運営しているというのが現状です。食の都山形と言いつつ、最大の市場である東京で山形の味を広められないというのは、非常に残念なことです。

13年間東京に単身赴任をしておりましたが、平日は東京で仕事、週末は山形で過ごすという生活をおくりました。コロナ禍の中で、ワーケーションの推進などと言っておりますが、今後このような方々が山形での週末生活を選択してもらうためには、やはり山形新幹線のスピードアップなどが必要条件となるのではないのでしょうか。2時間弱という壁をいかに破るかが大きなカギになるかと思われ。

日本の地方都市が様々な施策を打ち、交流人口を増やそうとしておりますが、まずは山形出身者が容易に帰省でき、ワーケーションの場所として出身地山形を選びたい環境整備が重要ではないかと考えております。

ご報告

本年度、社会奉仕事業として『人と猫が共生できるまちプロジェクト』事業を行なっています。

この事業は、山形市が行っている「猫の不妊去勢手術費補助金交付事業」に対して地区補助金を頂戴しての事業です。去る12月11日金曜日に佐藤会長遠藤幹事が山形市役所を訪れ、山形市長に対し助成事業に役立てて貰いたいと30万円を寄付させていただきました。

今後は、会員企業に掲示していただいているポスターの効果が期待されると思います。



三密コーナー

前回8月26日に発表された「山形西RC新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドライン」は臨時理事会協議にて以下のように修正されました。(令和2年12月2日付け)

山形西RC
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策ガイドライン

- クラブ会員の陽性が確認された場合
→ 例会の出席状況を確認し、例会の開催を判断します。
- クラブ会員もしくは会員家族・会員企業に濃厚接触者が確認された場合
→ 検査結果を確認し、例会の開催を判断します。
- 山形県の注意・警戒レベル レベル4 (特別警戒) が出た場合
→ その後の例会は中止とします。
- 最終判断は、会長一任とする。

【会員の皆様へのお願い】

- 各業種の感染拡大防止ガイドラインに沿って、「新しい生活様式」の実践をお願い致します。
- 感染拡大地域への移動があった場合については、各企業の指針に沿った行動をお願い致します。
それにより例会への出席が叶わない場合、所定の申請書を準備致しますので、お手数ですが ロータリー事務局宛にお送りいただければ幸いです。

今後も様々な状況に速やかに対応し、例会行事等既定方針通りに進めていきたいと考えていますので、会員皆様のご理解ご協力を、宜しくお願い致します。

	会員総数	出席会員数
本日出席 (12 / 21)	100名	52名